

広報

おおの



5月号

平成21年(2009年) NO.765



“特集” 中部縦貫自動車道 大野東－和泉整備計画決定

保健・医療・福祉拠点施設の整備へ基本計画策定

- P 7 越前大野名水マラソン シャトルバスの利用を
- P 8 市の人事異動
- P 10 中心市街地活性化リポート「平成大野屋」
- P 12 介護保険新制度スタート
- P 13 下水道公共ます設置負担額を改正 など

百花繚乱^{りょう}をカシャッ!

満開になったハナモモの美しさを
収めようと、カメラ機能付き携帯
電話を構える様子が見られました。
シャッターを切る電子音がウグイス
の鳴き声といっしょに山間に響いて
いました。

(4月19日、J R勝原駅付近)

大野油坂道路着工へ

中部縦貫自動車道大野東―和泉

整備計画決定



② 具体的なルートではありません

国土交通省は3月13日に中部縦貫自動車道の「大野東―和泉間14^{キロ}」の整備計画を決定し、平成20年度新規事業に5千万円、本年度も同額の調査費を計上しました。同省は関係する自治体や用地関係者に説明を行った上で路線調査を進め、具体的な工期を定めることとしています。

中部縦貫自動車道は福井市から長野県松本市を結ぶ全長160^{キロ}の高規格道路です。昭和62年に整備方針が決定されましたが、平成19年に策定された中期計画が白紙となり、道路特定財源の一般財源化や暫定税率をめぐり、事業採択が不透明になっています。現在、工事を行っている永平寺大野道路に続き、大野油坂道路も事業化されたことで県内全区間の整備に光明が

差しました。

整備計画では、大野東（下唯野）―和泉（貝皿）間は2車線で、設計速度は時速60^{キロ}。大野東、勝原、下山、和泉にインターチェンジを設置する計画で、総事業費は523億円です。本市ではこれまで決起集会を行うほか、公用車や市内業者のトラックにステッカーを張るなど、官民一体となり大野油坂道路の早期整備を訴えてきました。今後も整備計画区間の早期完成と残る18^{キロ}の事業化に向け、決意を新たに取り組んでいきます。

本市ではこれまで決起集会

元気な明るい話題



巢守和義さん(後野)

中部縦貫自動車道大野東―和泉間の整備計画の決定は、地域が元気になる明るい話題でありとてもうれしいと思います。和泉地区は山間の豪雪地帯で、どうしても道路が生活の要となっています。地域の方が安心して暮らすためにも、観光や産業の振興など経済的にも、中部縦貫自動車道は絶対に必要な道路であると思っています。和泉地区は県外からのお客様にとって玄関口なので、和泉―油坂間も含め早く全線が開通してほしいですね。

勝山—大野間も工事進む

小矢戸トンネルや大野ICなど

中部縦貫自動車道の永平寺大野道路では、勝山インターチェンジ（IC）から大野ICまでの区間の整備が着々と進展しています。

小矢戸トンネルの整備に向け、工事用道路の造成工事や、中津川では大野ICの整備に

向けて、盛り土材の搬入工事が進められています。

本年度、永平寺大野道路に事業費約73億円が予算計上されています。大野工区では小矢戸トンネルや中津川高架橋の工事、勝山市側でもトンネルの工事が進められます。



道路名	永平寺大野道路		大野油坂道路	油坂峠道路
区間名	福井北JCT - 永平寺西IC	永平寺西IC - 大野IC	大野 - 油坂峠	油坂峠 - 白鳥IC
距離	4.0*	22.4*	約32*	11.4*
基本計画	平成2年11月	平成元年8月	平成9年2月	平成元年8月
整備計画	平成5年7月	平成2年11月	平成21年3月 (大野東-和泉14*)	平成元年11月 (一部・平成2年11月)
供用開始	平成5年6月 (越坂トンネル関連1.6*)	平成19年3月(永平寺町内1.6*) 平成21年3月(上志比-勝山7.9*)	-	昭和62年11月(2*) 平成11年4月(全区間)

上志比—勝山間が開通

無料で供用開始

中部縦貫自動車道永平寺大野道路の上志比—勝山間7.9kmが完成し、供用開始になりました。

3月28日に勝山インターチェンジ付近で、西川県知事や岡田市長らが出席し開通式が開かれました。テープカットの後に、関係者の車両160台が通り初めを行いました。

この区間は山間部や山すそ



を通るため、高架橋やトンネルが約4割を占めます。平成10年度に着工し、事業費は約140億円。整備計画では4車線ですが、暫定の2車線で無料で通行できるようにしました。最高速度は時速60kmに設定されています。

同道路の供用区間は、越坂トンネルから永平寺西を経て永平寺東までの3.2kmに今回の開通部分を加え、11.1kmとなりました。

より便利で質の高いサービスを提供

保健・医療・福祉サービス拠点施設整備基本計画を策定



市では、平成22年度までに重点的に推進する施策を明らかにした「越前おおの元気プラン」の中で、保健・医療・福祉拠点施設の整備を掲げています。このほど、より便利で質の高いサービスを提供するための施設整備を行う保健・医療・福祉拠点施設整備基本計画を策定しました。

分散から集約へ

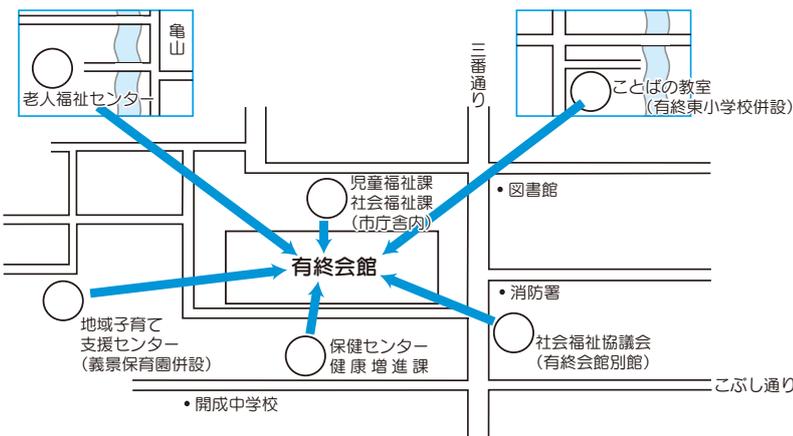
現在、分散立地している保健・医療・福祉に関連する市の施設を集約し、複雑化・多様化する市民のニーズに対応するため、有終会館を改修し、拠点の整備を行うこととしています。

現在、児童福祉課や社会福祉課は市役所内にあり、健康増進課は、やや離れた保健センターにあります。地域子育て支援センターが義景保育園に、ことばの教室が有終東小

学校にそれぞれ併設されています。

高齢者の憩いの場として親しまれている老人福祉センターは亀山近くにありま

このように保健・医療・福祉に関連する部署や施設が市内に分散されているほか、それぞれの施設面積やエレベーターなど必要な設備が不足していたり、施設の老朽化が進んでいたり多くの問題を抱えています。



市以外にも、地域福祉の中核的役割を担う機関として社会福祉協議会があります。同協議会は市役所とやや離れた有終会館別館にあります。地域福祉を一体的に推進するため、より市と連携を密にする必要があります。

これらの課題を解決し、利用者にとって使いやすい拠点整備を望む声が大きくなりました。

有終会館を 改修・増築し整備

5つの基本方針

平成15年度に定めた基本構想では、拠点整備の基本概念を次のとおりとしています。
「元気なまち、住んで良かったと実感できるまち」を実現するための、すべての市民がその人らしく安らかに生き生きと暮らしていける「市民の幸せの拠点」

- ① 便利でより質の高いサービスを提供する拠点づくり
- ② さまざまな市民が集い、市民に愛され主体的に利用される拠点づくり
- ③ 多様な機能や情報を集積し、相互調整によるサービスの提供を可能とする拠点づくり

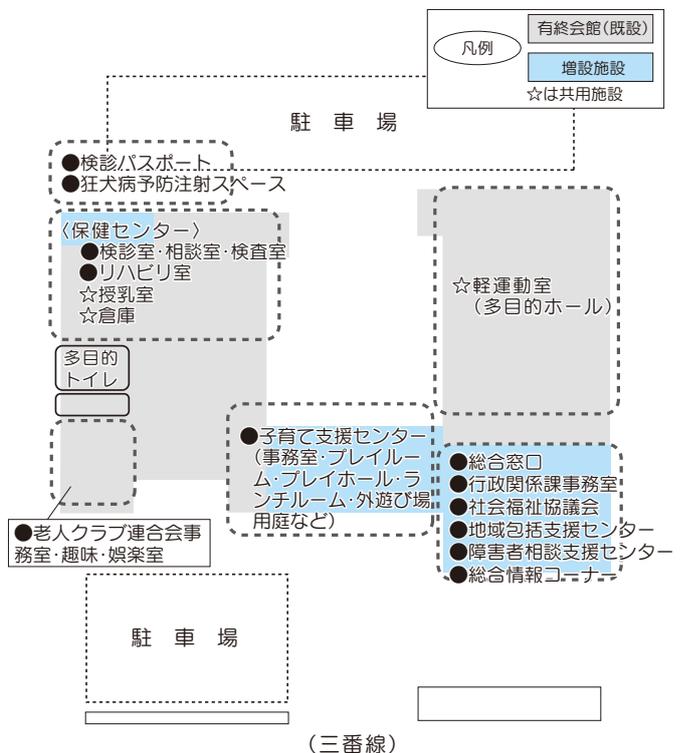
- ④ 人との環境に配慮した温かみのある拠点づくり
- ⑤ さまざまな主体が参画し「安心・安全の地域生活」実現の「協働の舞台」となる拠点づくり

市民の利便性を優先

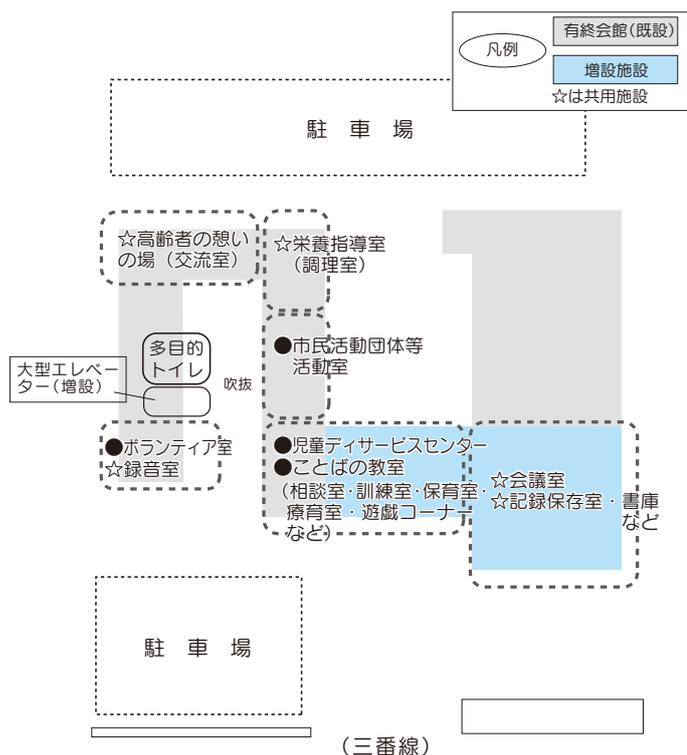
保健・医療・福祉サービス拠点は、次の3点を前提として施設整備を行い、市民の利便性を優先します。

- ▼ 有終会館の1階と2階の利用可能スペースを転用し、必要な改修整備を行う
- ▼ 不足するスペースを補うため、有終会館を増改築する
- ▼ 現在の有終会館の貸館機能は、できる限り存続させる

主な施設機能の配置計画(1階)



主な施設機能の配置計画(2階)



ワンストップ型サービスの実現で

利用者の利便性を高める

分散する複数の施設を集約すると、利用者にとって利便性が高くなります。

▼各種手続が容易
複数の施設を訪問することなく、1つの施設や窓口で情報を得ることができ、手続が完了する「ワンストップサービス」が可能になります。



施設整備

来年度着工予定 本年度は設計

▼くつろぎの場所

自由な公共空間が確保され、くつろいだり、待ち時間を過ごしたりできます。

▼連絡調整が容易に

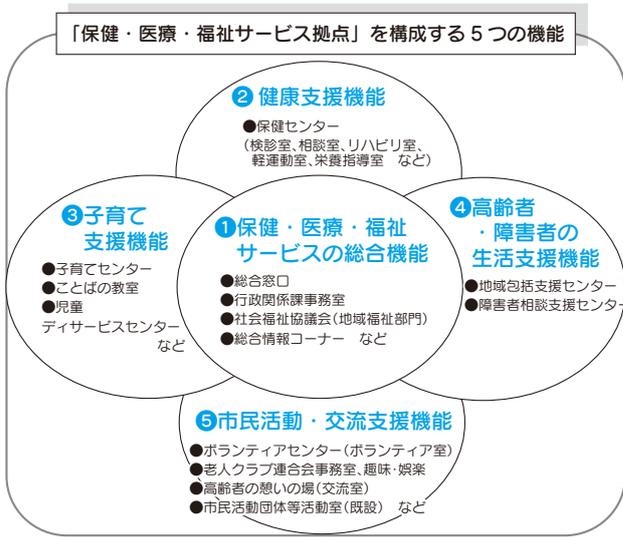
関連部署が集積されることにより、サービス提供が迅速になり、弾力的な運用が可能になります。また、事務が効率化され、費用の効率化が図られます。

この基本計画をもとに、今後、拠点整備を進めることとしています。

有終会館の構造上の制約などを踏まえ、本年度に施設の設計を行い、さらに調整を進めます。

平成22年度から有終会館の改修に移ります。設計と併せて、具体的な管理運営方法を検討することとしていきます。

問 総合政策課企画政策係
06・11111
内線432



	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
設計関係	→		
建設関係	↕調整↕	→	→
管理運営方法の検討と準備	→ 具体的な管理運営方法の検討・決定		

～5月24日号砲！第45回越前大野名水マラソン～

選手も応援する皆さんも

シャトルバスの利用を！



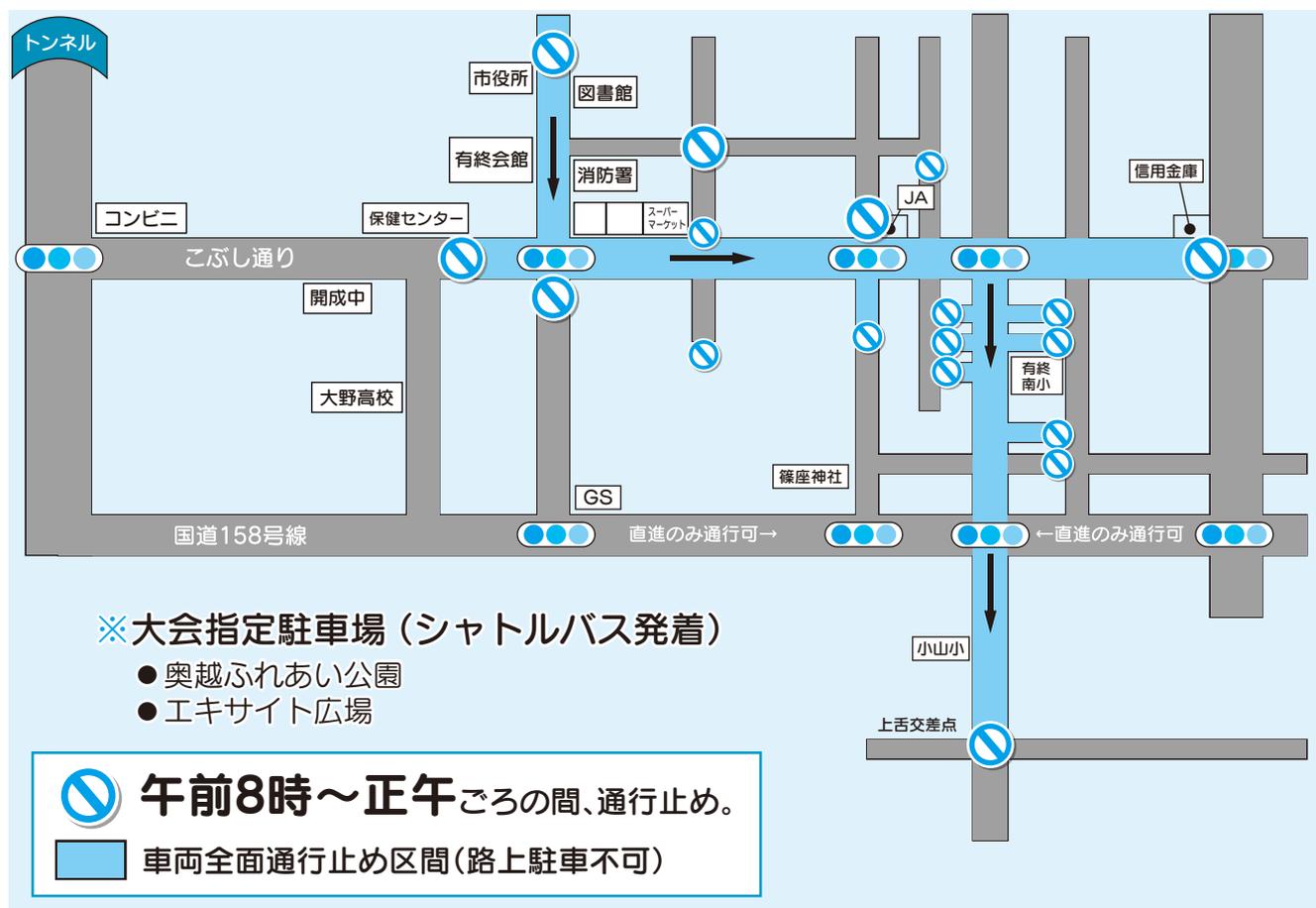
沿道での声援と交通規制に協力を

市内をはじめ、県内外から3,000人を超えるランナーが参加する本市最大のスポーツイベント「越前大野名水マラソン」。沿道での給水やスポンジ配布などの応援のほか、今年もコース沿線各地区からの協力を得て「彩り～いろどり～運動」を展開。ランナーに対するもてなしの心を、花や看板などで表現します。参加者の約6割を市外からの来訪者が占め、本市の良さを市外の人に知ってもらおう絶好の機会です。マラソン当日の沿道での声援と交通規制に協力をお願いします。



問 越前大野名水マラソン実行委員会

(スポーツ課内 ☎ 66・1111 内線 531)



越前大野名水マラソンは、全国ランニング大会100撰に4年連続で選出されています。4年連続の選出は、福井県内で唯一で、参加者から高い評価を得ています。

市の人事異動

4月1日付けで、総勢172人の人事異動を行いました。うち新採用は7人、退職12人です。

異動の内訳は、部長級5人、課長級21人、課長補佐級25人、係長級35人、主査級45人、主事級24人、業務職員15人です。

部長級

▼総務部長・下河育太▼市民福祉部長(兼)福祉事務所長

藤森勉▼会計管理者会計課長
事務取扱・澤田みち代▼議会事務局長・中村浩一▼消防本部消防長・松田市郎

課長級

▼秘書政策局▼秘書課長・山村正人▼総務部▼総務課長・山羽田年也▼財政課長・巻寄富美男▼市民福祉部▼市民課長・井川鋭子▼環境衛生課長(兼)浄化センター所長・大久保雅章▼健康増進課長(兼)保健センター所長・木戸口正和▼和泉診療所長・木下愛▼児童福祉課長・松田輝治▼産業経済部▼産業政策課長(兼)産業文化展示館長(兼)ふるさと公園サンスポーツランド所長(兼)職業訓練センター所長・金子正義▼農業農村振興課長(兼)農業委員会事務局長(兼)六呂師堆肥センター所長・篠田守一▼建設部▼建設課長(兼)防雪基地管理棟管理者・佐子

教育長を任命

—松田公二氏を新たに—

臨時大野市教育委員会が4月9日に開かれ、教育長に松田公二氏(中挾三丁目)を任命しました。任期は前教育長の残任期間である平成22年12月27日までです。



松田氏は、3月31日付けで辞職した中森繁夫氏の後任として、4月8日に開かれた臨時議会で同意され、教育委員会委員に任命されました。

▼秘書政策局▼秘書課長・山村正人▼総務部▼総務課長・山羽田年也▼財政課長・巻寄富美男▼市民福祉部▼市民課長・井川鋭子▼環境衛生課長(兼)浄化センター所長・大久保雅章▼健康増進課長(兼)保健センター所長・木戸口正和▼和泉診療所長・木下愛▼児童福祉課長・松田輝治▼産業経済部▼産業政策課長(兼)産業文化展示館長(兼)ふるさと公園サンスポーツランド所長(兼)職業訓練センター所長・金子正義▼農業農村振興課長(兼)農業委員会事務局長(兼)六呂師堆肥センター所長・篠田守一▼建設部▼建設課長(兼)防雪基地管理棟管理者・佐子

重夫▼幹線道路課長・松田安雄▼下水道課長(兼)下水処理センター所長・辻忠信▼教育委員会事務局▼社会教育課長(兼)視聴覚ライブラリー館長(兼)生涯学習センター館長・島田博明▼議会事務局次長・鉦崎昭治▼消防本部▼次長(兼)署長・谷口利和▼次長補佐(兼)副署長(消防訓練所長)・山田守雄▼警防課長・石田純也▼和泉分遣所長・朝日弘幸▼通信指令室長・大藤利一▼予防課長・高野清彦【県派遣職員の併任解除】八木大介(和泉診療所長)

課長補佐級

▼総務部▼総務課課長補佐(職員担当) 山元信子▼財政課課長補佐・加藤正幸▼情報広報課課長補佐・山田一郎▼生活防災課課長補佐市民生活係長事務取扱・桐林克己▼監理検査課課長補佐検査係長事務取扱・森岡幸弘▼市民福祉部▼市民課課長補佐・永田由美子▼環境衛生課課長補佐・清水悦朗▼社会福祉課課長補佐(高齢福祉・介護支援担当) 介護支援係長事務取扱・國枝勢津子▼児童福祉課課長補佐 児童家庭係長事務取扱・岸山静江▼産業経済部▼産業政策課課長補佐(政策推進担当) 小川市右工門▼産業政策課長補佐(商工労働担当) 米津源一▼農業農村振興課課長補佐(兼)農業委員会事務局次長・脇本浩嗣▼農林整備課長補佐基盤整備係長事務取扱・村上幸▼観光振興課長補佐施設係長事務取扱・畑中六太郎▼建設部▼都市計画課課長補佐建築住宅係長事務取扱・阿部継一▼福井県期高齢者医療広域連合派遣・清水啓司▼越前おおの農林樂舎派遣・横井一博▼教育委員会事務局▼教育総務課課長補佐(庶務・施設担当) 施設係長事務取扱・本多充▼教育総務課課長補佐(指導担当) 竹村和真▼社会教育課課長補佐(兼)生涯学習センター次長・三嶋政昭▼図書館副館長・岸田りえ子▼選挙管理委員会事務局次長・齊藤嘉代▼消防本部▼総務課課長補佐・山田幸平▼総務課課長補佐(企画調整担当) 松本耕治▼警防課長補佐・仲井太

係長級

▼総務部▽財政課財政係長・小林則隆▽財政課管財係長・岡吉男▽税務課資産税係長・吉田陽▽税務課納税係長・大倉清一▽情報広報課情報管理係長・養老伸介▼市民福祉部▽市民課市民窓口係長・田中裕美子▽市民課保険年金係長・森永宣昭▽社会福祉課社会福祉係長・中屋克己▽あかほ保育園指導保育士・築紫和美▽荒島保育園指導保育士・井部輝美▽和泉保育園指導保育士・村上美代子▼産業経済部▽産業政策課政策推進係長・吉田克弥▽産業政策課商工労働係長・砂子淳一▽農業農村振興課生産振興係長・山田徹夫▽農業農村振興課農政係長・大久保克紀▽農林整備課林政係長・横田晃弘▼建設部▽都市計画課計画景觀係長・澤田陽彦▽都市計画課都市整備係長・澤田誠司▽上水道課管理係長・坂井八千代▽上水道課業務係長・山田努▼和泉支所▽住民課住民係長・小松功英▼教育委員会事務局▽教育総務課庶務係長・清水宏樹▽教育総務課指導係長・白

井五月▽社会教育課社会教育係長(兼)生涯学習センター係長・山村和美▽スポーツ課社会体育係長・谷信弘▼議事事務局庶務係長・山田明美▼農業委員会事務局係長・竹内久喜▼消防本部▽予防課巡察指導係長・猪野則夫▽警防課消防係長・飯田裕人▽警防課通信指令室係長・多田和明▽予防課危険物調査係長・鳥山智之▽和泉分遣所係長・福岡学▽同係長・宮西浩幸▽警防課警備係長・小嶋義晴▽予防課予防係長・幅岸基修



▼総務部▽税務課・脇本康弘▼市民福祉部▽社会福祉課・飯田圭佑▼産業経済部▽農業農村振興課・鈴木翔太▼建設部▽都市計画課・浦山寛人▽上水道課・藤田託也▼消防本部▽県消防学校派遣・二嶋亨▽県消防学校派遣・伊藤俊介【嘱託職員・新任】▽青少年教育センター所長・道鎮栄一▽図書館長・山本法善

新採用

退職者(3月31日付)

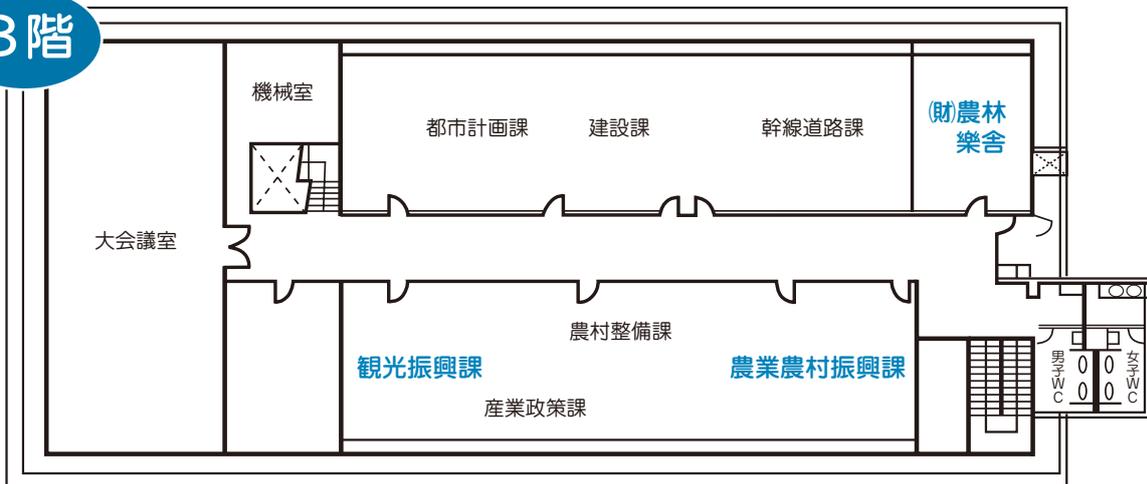
井五月(総務部長) 井部淑子(市民福祉部長) 谷秀明(会計管理者) 永田正幸(消防長) 寺西重朗(下水道課長) 齊藤信夫(児童福祉課長) 江守正明(消防署長) 権守國夫(警防課長) 坂下佳実(和泉分遣所長) 櫻田則子(荒島保育園指導保育士) 田中良一(建設課) 清家ひろみ(学校給食センター)

事務室が一部変更

越前おおの農林楽舎の設立や機構改革に伴い、4月1日から市庁舎3階事務室の配置が一部変更されました。



3階



「越前おおの」を広く宣伝

株式会社平成大野屋と番頭会

平成大野屋は国の登録文化財である洋館や、平蔵・二階蔵からなる「まちなか観光」の拠点施設です。この施設を管理し、活力ある市街地を形成するため、越前おおのを広く県内外に宣伝する



事業に取り組んでいる企業が株式会社平成大野屋です。また市民からなる番頭が本市の宣伝や事業の企画運営を行う番頭会があります。

株式会社平成大野屋は、市民参

加型の第三セクター方式により、地域おこしの会社として平成11年に設立されました。平成大野屋を拠点に、地元の人々や関係団体などと連携し、さまざまな事業を展開しています。

地場産品を宣伝や販売

株式会社平成大野屋は、農林産物や加工品など大野の恵まれた環境で生産された自慢の産品を市内外へ広く情報発信し、販売しています。

○こだわり産品を販売

平成大野屋店頭での特産品販売や地元の新鮮な農産物を並べる直売コーナーの開設に



より、こだわりの地域産品を販売しています。全国から、いつでも大野の味を楽しめるようにとホームページでショッピングサイトを開設しています。

○オリジナルブランドを開発

真空パック詰めしたころ煮のサトイモ、大豆生産者と醸造所とが連携し生産したしょうゆ、都市住民向けに包装を改良した菓子など、都市住民の新たなニーズに対応した独自のブランド商品を開発しています。

○カタログの発行

通年で取り扱う特産品の総合力カタログを発行しています。中元や歳暮など贈答品のニーズに合わせた特集カタログも発行しています。

○県外イベントで出向宣伝

東京都や大阪府、京都府など都市圏で開催されるイベントなどに積極的に出向き、物産の販売や宣伝活動を行っています。市内の農業者や加工業者も同行し、生産者と都市住民が顔を合わせることで

新たな交流が生まれ、「大野ファン」となる人が増えています。

○アンテナショップと連携

県内の新商品を東京都内で試験的に売り出し、都市住民の反応を探る県のアンテナショップ「ふくい南青山291」と連携を図り、展示即売会などを行っています。

郷土料理でもてなし

地元で採れた新鮮な野菜などを生かし、郷土料理を中心に大野の味を提供しています。報恩講料理など、大野で育まれた食文化の伝承にも取り組んでいます。

○はいから茶屋で郷土料理

株式会社平成大野屋のレストラン「はいから茶屋」では大野の食材にこだわった季節の郷土料理を提供しています。個人で本市を訪れる旅行者だけでなく、旅行会社が企画するツアーなど団体の昼食にも積極的に対応しています。

○食育の取り組み

食育の関連事業として、サトイモやスイートコーンなどの収穫体験、そば打ち、食体験、「報恩講料理の集い」の開催による大野特有の食文化に触れる機会の創出にも取り組んでいます。

○平蔵や二階蔵の活用

平成17年にオープンした「二階蔵」は、木や折り紙などを使ったクラフト体験が楽しめることから、遠足で訪れた小学生を中心に人気があります。また、施設内の展示場は市内の書道や絵画、趣味の団体などによる展示会が定期的に開催されるなど発表の場としても活用されています。

平蔵は木のぬくもりを感じられる小ホールとして、団体客の昼食会場として、講演会やミニコンサートなどの会場として利用されています。

入込み数の増加

平成20年の売上高や入込み数、観光バス駐車場の予約台数の推移を見ると、いずれも増加しています。平成18年に



比べ、入込み数は約4万2千人から約4万5千人へと、観光バス駐車場への予約台数は2082台から614台に倍増しています。

わいなる誘客に向けて

○旅行会社への働き掛け

名古屋市や大阪市などで開催される福井県観光商談会に積極的に参加し、旅行会社へ働き掛けています。具体的な市内の散策ルートを提案し、特産品や郷土料理を幅広く宣伝しています。

平成大野屋事業も継続

株式会社平成大野屋が設立される契機となった平成大野屋事業も継続しています。この事業は全国にいる「大野」という姓を持つ人に本市を宣伝してもらおうと始まりました。現在、全国に40人の大野姓の人が支店主として活動し、市民10人が番頭として事業の企画や運営を行っています。番頭会は寄り合いが月当たり2回程度開かれ、活発な意見が交わされています。

○ネットワーク生かし交流

平成大野屋事業の柱である交流事業は、全国の支店主によるネットワークが生かされています。昨年度、番頭会が冬のイベント「越前おおの冬物語2009」の企画や運営に実行委員会の一員として携わりました。イベント当日、支店主やその家族など15人が参加しました。雪でモニユメントを作成し、平成大野屋前で出店するなど、市民との交流を深めながらイベントを盛り上げました。番頭会の反省会では「今後の交流事業をさ

らに発展させていきたい」支店主の地元で開催されるイベントに出向き、支店主や番頭らと本市の宣伝活動を展開したいといった意見も出され、今後も積極的な活動を行っていくこととしています。

○ 産業政策課政策推進係
☎ 66・1111内線3992

越前おおの農林楽舎を設立

「越前おおの農林楽舎」は、農林業関係者や商工業関係者、行政が連携し、農林業の発展と地域の活性化につなげていくことを目的に、一般財団法人として設立されました。

農林産物のブランド化と販路拡大などの特産振興、優良農地の確保・効率的利用、多様な担い手の育成・確保、都市住民との交流の推進などに取り組みます。

当面は、生産者の顔が見える産地保証などの仕組みづくりや出向宣伝などによる特産振興と地域農業サポートセンター業務による地域農業支援、農林業体験などを通じて交流を図るエコ・グリーンツーリズム、越前おおのエコフィールドの管理・運営などの事業に取り組んでいきます。

